

第5学年 道徳学習指導案

1 主題名 男女が理解し合う心

【内容項目 2－(3)「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し助け合う」】
資料名 「心のレシーブ」(東京書籍)

2 主題設定の理由

○ 本学級の子どもたちは、友達と一緒に学習したり、元気に遊んだり、けんかしてもすぐに仲直りしたりすることができる。また、お互いに助け合う様子も見ることができる。しかし、男女の関わりを見てみると、清掃活動で分担して取り組む姿は見られても、自発的に男女で協力し合って活動に取り組む姿があまり見られない。また、男女別に見てみても、休み時間も教室で1人で過ごす等、友達との関わりが薄い子どもたちが見受けられる。これは、協力することの大切さは分かっている、相手の言動に共感できなかったり、趣味や趣向を同じくする閉鎖的な仲間集団をつくる傾向が生まれ、そのために疎外感を感じたり、友達との間で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる時期にあることが影響していると思える。したがって、健全な友達関係を育てていくことがより一層重要になる。そこで、感情と理性のバランスをとりながら異性への意識が対立から協調へと発達してくるこの期に本主題を設定する。そして、保健体育の「成長や体の違い」の学習とも関連づけながら、男女それぞれが互いに理解し合い、好ましい異性観を知ることによって、男女仲良く協力しようとする気持ちや態度を養うことができるようにする。

○ 望ましい人間関係は、互いに協力し合うことから始まるものであり、信頼し、助け合う中から真の友情が生まれていく。男女が互いに認め合うとは、お互いの違いを認識した上で、ともにかけがえのない存在であるという自覚に立って、相手のよさを見つけることである。そうすることによって、お互いの力を出し合い、欠点を補い合うという協力が生まれる。さらに、相手のよさに学び、互いに成長しようという生き方につながっていく。本主題に関しては、低学年2－(3)「友達と仲よくし、助け合う」中学年2－(3)「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」を学習してきた。これを受けて、本主題では男女が互いのよさを認め合いながら、協力したり助け合ったりして、ともに高まろうとする心情を育てることがねらいである。

本資料は、バレーボールの得意な「陽子」が、初めは同じチームの男子に不満をもっていたが、男子が真剣に練習をしていたことを知り、それまで一方的な見方をしていたことに気付く、勝利に向かってチームの心が一つになるという内容である。「陽子」の自分の得意分野ゆえに躍起になっていた時と、男子の本当の姿を知った時の気持ちの変化を考えることを通して、男女関係なく相手を理解し、仲良く、協力することの大切さが分かる資料である。

○ 本時では、男女が相互に認め合い、尊重し合いながら生活していくことの大切さを認識できるようにしたい。そのために、まず、「気付く」段階では、問題意識をもたせるために、男女のお互いへの思いをアンケート調査の結果をもとに交流させ、自分たちのクラスには課題があることを意識させる。次に、「考える」段階では、まず、資料の中の、クラスにおける男女がまとまっていないことをとらえさせるために、資料前半の男女がかけ合う言葉に着目させる。資料後半では、そんな男女がまとまった理由について、練習試合に真剣に取り組む、やる気に満ちあふれた良夫と直希の姿に触れ、はっとした「陽子」が、どんなことに気付いたのか考えさせ、男女問わずに相手を理解することの大切さに気付かせたい。そして、「深める」段階では、資料からつなげて、「みんながもっと仲良くなり、クラスが一つになるために大切な心は何か」について考えさせる。「心のレシーブ」の意味について考えさせてながら、自分たちのクラスの中の具体例を出し合うことで、互いを理解することの大切さに気付かせたい。最後に、「つなぐ」段階では、「みんなが一つになった」経験を振り返らせ、野外活動で男女混合班で協力し合えたり、地区競技会のリレーで2連覇できた経験等を想起させ、これからの学級内、学校内での自分の態度について考えさせたい。

3 本時 平成28年12月 7日(水) 第5校時 於 5年1組教室

4 本時のねらい

○ 信頼し合えていなかった「陽子」のチームの男女が練習試合でまとまり始めていく様子から「陽子」、「良夫」、「直希」の変化の理由を考えることを通して、男女が互いに相手の立場に立って考え、協力しようとする心情を養う。

5 準備

場面挿絵 野外活動や地区競技会の写真 ワークシート アンケート

6 展開

段階	学習活動	指導上の留意点												
気付く	<p>1 アンケート調査から、男女の互いへの思いについて交流し、本時学習のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男子に対する女子の思いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し、協力したり、優しくしたりして欲しい。 ・ルールを守れる人になって欲しい。 ・「みんなで遊ぶ日」に他学年と遊ばないで欲しい。 ・文句を言わないで欲しい。 ○女子に対する男子の思いを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・男子全員と協力して欲しい。 ・どんな人とも仲良く出来る人になって欲しい。 ・人の良いところを見つけられる人になって欲しい。 ・好き嫌いをしないで欲しい。 ○本時学習のめあてをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 男女が、もっと仲良くなるために大切な心について考えよう。 </div>	<p>○事前アンケートを集約したものを提示し、男女が互いに考えをもっていることに気付かせる。</p> <p>○アンケートの質問内容を想起させ、このまま目標に向かうには不安があることを確認して、本時学習のめあてをもたせる。</p>												
考える	<p>2 資料を読んで、男女の互いに対する気持ちを中心に考え、話し合う。</p> <p>(1) スポーツ大会のチームが決まり、練習が進む中の女子(陽子と幸世)と男子(良夫と直希)の、お互いに対する気持ちを考える。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">【女子】</th> <th style="width: 50%;">【男子】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「8時までに来ること。」</td> <td>⇒ 「おまかせするよ。」</td> </tr> <tr> <td>「あら、ちゃんと来たのね。」</td> <td>⇒ 「なんだ、信用されていないんだ。」</td> </tr> <tr> <td>「これでは、試合にならないわ。」</td> <td>⇒ 「よっちゃんだって、がんばってるじゃないか。」</td> </tr> </tbody> </table> <p>・男子と女子のやる気が正反対。</p> <p>(2) 練習試合後のミーティングの男女の会話より、チームの男女の、お互いに対する気持ちを考える。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">「ううん。わたしのほうこそ…」</td> <td style="width: 50%;">← 「ごめん。ぼくのせいで負けちゃった。」</td> </tr> <tr> <td>(みんなが力強くうなずいた。)</td> <td>← 「よし、次はぜったい勝つぞ。」</td> </tr> </tbody> </table>	【女子】	【男子】	「8時までに来ること。」	⇒ 「おまかせするよ。」	「あら、ちゃんと来たのね。」	⇒ 「なんだ、信用されていないんだ。」	「これでは、試合にならないわ。」	⇒ 「よっちゃんだって、がんばってるじゃないか。」	「ううん。わたしのほうこそ…」	← 「ごめん。ぼくのせいで負けちゃった。」	(みんなが力強くうなずいた。)	← 「よし、次はぜったい勝つぞ。」	<p>○文中の会話文から、チームの男女がまとまっていることをとらえさせる。</p> <p>○文中の会話文から、チームが一つにまとまったことをとらえさせる。</p>
【女子】	【男子】													
「8時までに来ること。」	⇒ 「おまかせするよ。」													
「あら、ちゃんと来たのね。」	⇒ 「なんだ、信用されていないんだ。」													
「これでは、試合にならないわ。」	⇒ 「よっちゃんだって、がんばってるじゃないか。」													
「ううん。わたしのほうこそ…」	← 「ごめん。ぼくのせいで負けちゃった。」													
(みんなが力強くうなずいた。)	← 「よし、次はぜったい勝つぞ。」													
深める つなぐ	<p>(3) チームのみんなの心が一つになった理由について考え、話し合い、本時学習をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ううん。わたしのほうこそ…」と陽子が言ったから。 ・男子が放課後練習をしていたことを知った陽子が反省したから。 ・陽子の願いを聞いて、やる気の無かった男子が放課後に練習をして上達したから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「相手の立場に立って考え、受け止めて返す」心が大切。 </div> <p>3 5年1組の男女が、もっと仲良くなるために大切な心について、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんばっていることをや見つけ、認めてあげること。 ・男女関係なく、みんなで一緒にやろうという気持ち。 ・言葉をかけあって、助け合うこと。 <p>4 協力し合い、友情を深め合った経験を想起し、今後の学級内や学校内での協力や友情についての思いや願いについて意欲をもつ。</p>	<p>○「陽子ははっとした。」という言葉に着目させ、男子の頑張りの理由について考えさせる。</p> <p>○資料名の「心のレシーブ」の意味について考えさせる。</p> <p>○「これまでの自分」「これからの自分」を文頭に考えを書かせ、発表し合わせる。</p> <p>○野外活動などで見られたよさを紹介して自信を持たせる。</p>												

7 成果と課題

(1) 本時学習における成果と課題について

〈導入／気付く 段階〉

- 事前アンケートの結果を知り、自分たちが思っている以上の学級内のチームワークの悪さや、異性からの不満に気付き、最上級生になるのを楽しみにしていた子ども達には課題意識をもたせることが出来た。
また、最上級生になることに不安に感じている子どもたちには、その理由を明確にすることができ、課題解決の見通しをもつことにもつながった。

〈展開／考える 段階〉

- 資料の中で、対立していた時の男女の互いに対する気持ちと、まとまり始めた時の互いへの思いの2カ所に絞って気持ちの変容とその理由をとらえていたことで、子ども達は、自分の思いと相手の思いが「違う方を向いている」ことに気づき、「同じ方を向く」という言葉で男女が協力するときに必要な心についてまとめることができた。2年間近く指導してきた中で子ども達から初めて出てきた「同じベクトル」的な言葉であった。価値ある言葉であるととらえている。
- 予想し、期待していた「相手の立場に立って考え、受け止めて返す」(まとめの言葉)の中の「相手の立場に立って」は、何人かの子どもから表出されたが、「相手の気持ちを受け止めて返す」といった意味合いの考えの表出には至らなかった。これは、登場人物(陽子)の経験と自分の体験を結びつける展開後段の指導が至らなかったためである。類似した体験や経験を事前アンケートに盛り込むなど、本時学習資料に共感できるような事前の配慮が必要であったと考える。

(2) 学習後の学校生活に見られた成果と課題について

- 以前より積極的に協力し合い、相手の気持ちを考えて受け止め、異性とも仲良く接する姿が数多く見られるようになってきた。
- 帰りの会等の日常において、継続的に「受け止めて返す」子どもの姿を紹介していく。